

NPO法人

全日本語りネットワーク

〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-18-3

国分寺マンション B-03A

(FAX) 0237-67-7001 (HP) <http://japankatarinet.jp/>(E-mail) welcome@japankatarinet.jp (振替) 00130-2-114808

2025. 10. 1 発行

ニュース

宮のかたいベ

有岡光枝(栃木県宇都宮市)

私は民話あたりの活動の中で、宇都宮市は戊辰戦争や太平洋戦争で街のほとんどが戦火にあいましたが、まだまだ千年を超える歴史を知ることが出来る名所・旧跡・お寺や神社が沢山残されていること。そして、そこには必ず謂れ、言い伝え、伝説があること。文字化されただけでも百話以上の伝説があることを知りました。この宇都宮市に伝わるお話を多くの人たちに伝えたいという思いから、市の「観光ボランティアガイド養成講座」を受講し、2010年4月にうつのみやシティガイド協会の会員になり、宇都宮に伝わるお話を語りながら街案内をしています。民話(伝説)の再話と同じように資料だけでなく出来るだけ現地に出向き、その土地に住む人たちにお話を聞いて案内資料を作成しています。そんな中で出会った多くの人たちにその土地への思いや歴史など色々ことをたくさん教えていただいています。その出会いが私の心の財産です。そして、全日本語りネットワークの幅広い活動を知り、語り部として民話だけでなく、戦争や震災の話も語り継いでいきたいと思うようになりました。

シティガイドとして、「宇都宮空襲の戦跡巡りの」の案内をしています。戦跡めぐりを通して、平和の尊さ戦争の悲惨さや宇都宮の人たちの復興の力強さとともに、何より、ユネスコ憲章の序文「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」、この思いを多くの人に届けられたらと思っています。宇都宮市は昭和20年7月12日の深夜に米軍のB29大型爆撃機が2時間半近く約10万個の焼夷弾を投下し中心市街地が火の海になりました。死者は620人を超え、1128人以上の人が火傷などのけがを負いました。何と、市民の戦意をそぐため軍事関連施設ではない、市民が暮らす市街地を狙った米軍の無差別攻撃でした。空から無慈悲に降り注ぐ焼夷弾の雨になすすべもなく、しょういだんの直撃を受けて亡くなる人、激しい炎に包まれ、灼熱となった防空壕の中で息絶える人、郷土の夜空を赤く染める、異様な光景は郊外の住民の目にも焼き付き、今も脳裏から消えることはないそうです。

以下は、『忘れないでください 宇都宮空襲の記憶』を書かれた小林新子さんの言葉です。

「戦争って、何でしょう。この世紀に私たちはこの目で地獄を見てきたのです。世界では今も、これ以上の地獄が、戦争と言う状況のもとに繰り返されているのです。なぜ戦争はなくならないのでしょうか。宇都宮市民でも7月12日の空襲を知らない人が多くなりました。1945年3月10日東京大空襲で、一夜にして10万人の方が焼死したことさえ、知らない人が多勢いるのです。」

なんども、なんども小林さんたち体験者の方々から戦争の悲惨さ平和の大切さを聞かせていただきました。街の発展に伴い戦争の痕跡が消えつつある中、戦火をくぐり抜けた人も数少なくなっています。そんな中で小林さんのお話をもとに宇都宮の復興のシンボルいちょうの木を題材に「宇都宮空襲と大いちょう」の話を語るようになりました。多くの人が苦しみ、傷つき、悲しみや途方にくれたあの日のことを。体験者の言葉を胸に平和の大切さを伝えていきたいと思います。

街案内では、宇都宮の新しい発見と共に、

「宇都宮に来てよかった。楽しかった。また必ず来たい。次は誰かを連れてきたい」そう思いただけのように笑顔でお迎えし、笑顔でお見送りをして、沢山の笑顔を送っています。古希を迎える私ですが、これからもこの土地に伝わるお話を語りながら、来訪者の皆さまとともに楽しんで街歩きをして、大好きな宇都宮の魅力を多くの人に届けたいと思っています。

(ありおかみつえ)

